

中期目標の達成状況に関する評価結果

香川大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	

評価結果

《概要》	5
《本文》	9
《判定結果一覧表》	21

法人の特徴

①大学の基本的な目標

世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに、共生社会の実現に貢献する。

(教育の目標)

豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた課題探求能力を備え、国際的に活動できる人材を育成する。

(研究の目標)

多様な価値観の融合から発想される創造的・革新的基礎研究の上に、特色ある研究を開花させ、社会の諸課題の解決に向けた応用的研究を展開する。

(地域貢献の目標)

「知」の源泉として、地域のニーズに応えるとともに、蓄積された研究成果をもとに文化、産業、医療、生涯学習等の振興に寄与する。

②大学の機能別分化

香川大学は、「地域に根ざした学生中心の大学」として、高度専門職業人の養成、幅広い職業人の養成を両輪としつつ、地域の大学として高い社会貢献機能を持った大学を目指す。研究面においては、前期の機能を支える研究をこれまで以上に推進するとともに、特定の領域については世界的な研究拠点の形成を目指す。

香川大学は、平成 18 年に制定した香川大学憲章において、「多様な学問分野を包括する「地域の知の拠点」としての存在を自覚し、個性と競争力を持つ「地域に根ざした学生中心の大学」を目指す」ことを定め、地域活性化の中核拠点を目指して大学の機能強化に取り組んでいる。

1. 学士課程教育を通じて、21 世紀型市民を育成することを目指している。21 世紀型市民及び学士に必要な要素を定めてディプロマ・ポリシー (DP) の項目とし、これに基づく教養教育 (全学共通教育) 及び学部専門教育を実施している。また、学生の主体性を涵養するための学修の機会を提供するとともに、自主的な活動に対する支援を行っている。
2. 教育・研究両面において、アジア各国との交流を進めている。教育面ではチェンマイ大学 (タイ) とのダブルディグリープログラム、ガジャマダ大学 (インドネシア) 等とのジョイントマスターディグリープログラム等において留学生の受入及び日本人学生の派遣を進めている。研究面では、生活習慣病対策等の研究をタイ、インドネシア、ブルネイ等に展開している。
3. 地元自治体・企業等と連携し、地域の課題解決に資する研究を数多く行っている。本学で発見された希少糖の実用化による産業振興のほか、南海トラフ巨大地震を想定した防災・危機管理、離島の医療に対応するかがわ遠隔医療ネットワーク (K-MIX)、香川県に多い糖尿病への対策、瀬戸内圏の環境保全等の分野で、研究成果を地域に還元している。

[個性の伸長に向けた取組]

21世紀型市民に必要な要素を①言語運用能力、②知識・理解（21世紀型市民及び学士として）、③問題解決・課題探究能力、④倫理観・社会的責任とし、これに⑤地域理解を加えて全学部共通のディプロマ・ポリシー（DP）の項目としている。全学共通教育では、これに対応した教育プログラムを平成23年度から実施し、26年度には抜本的な見直しを行った。平成27年度に、全学生を対象に実施した学士課程教育プログラムに対するアンケート調査を実施した結果、21世紀型市民育成のための学士課程教育は一定の成果を挙げていることを確認している。

学生に多様な学修の機会を提供するため、学部の枠を超えた全学的な教育プログラムとして、自由参加型の特別教育プログラム「ネクストプログラム」（グローバル人材育成、防災士養成、人間探究）を平成25年度から実施している。また、自由参加型の正課外講座「アドバンスト・セミナー」を平成25年度から実施している。本セミナーは、最先端の研究の現場、リアルタイムな社会問題の現場で活躍される方々を講師に迎えて行っている。

平成22年度から、チェンマイ近辺の在留邦人に対し、K-MIXを活用した遠隔医療相談を行っている。また、タイ及びブルネイにおける生活習慣病への対策として、メタボ検診の導入、食育プログラム、健康食品の開発等に関する国際共同研究を実施している。JST「さくらサイエンスプラン」により、アジア各国から研究者を受け入れ、農学・医学分野における人材育成や研究を推進している。

希少糖研究を農学・医学部分野へ展開し、植物における病害抵抗性に関連する遺伝子発現の効果や、血糖値上昇抑制機能、抗酸化作用・抗癌作用等についての研究成果を挙げた。平成25年度、希少糖含有シロップが実用化され、現在では1,500種類を超える製品に利用されている。

平成24年度、「四国防災共同教育センター」を設置し、「学校防災・危機管理マネージャー」、「行政・企業防災・危機マネージャー」、「救急救命・災害医療・公衆衛生対応コーディネーター」の防災・危機管理の専門家の養成を行った。全国初の「香川地域継続検討協議会」、「香川地域継続首長会議」を設置し、地域組織BCP作成を推進するなど、地域防災力向上のための取組を行っている。

（関連する中期計画）計画1-2-1-2

計画1-2-2-1

計画2-3-1-2

計画2-2-2-1、計画2-2-2-2、計画3-2-1-2

計画3-2-2-1、計画1-3-2-1

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

被災地の復興支援に一丸となって取り組むために、学長を本部長とした「香川大学東日

本大震災復興支援対策本部」を設置し、医療スタッフの派遣や救援物資の供給、義援金の募集などを行った。医学部及び医学部附属病院からは、発災当日にDMAT（Disaster Medical Assistance Team（災害医療救助チーム））として医師2名、看護師2名ほか計6名を派遣し、さらに、亜急性期の継続的な避難所医療支援として救護班（医師1名、看護師2名で編制）を4班派遣した。また、福島原発の事故に関して放射線スクリーニング検査支援に放射線技師1名を派遣したほか、検案支援に法医学教授1名を派遣した。

また、平成23年度においては、医療支援として歯科検案活動支援（歯科医師）等を行ったほか、義援金の寄託、学生団体による募金活動、教員・学生による被災地でのボランティア活動、被災した学生等の受入や支援等を行った。

平成23年度震災復興・日本再生支援事業に「遠隔医療技術を用いた震災地域の医療再生プロジェクト」が採択され、本学の遠隔医療技術を用いて、岩手医科大学及び岩手県立大学の協力のもと、被災地の仮設診療所や在宅患者等の医療支援を行った。

さらに、震災被害の実態を把握し、近い将来発生が危惧されている南海トラフ巨大地震への防災対策に活用するため、千葉県浦安市の液状化被害調査を行った。調査結果については、香川県や高松市に対しても情報提供を行い、地域防災に貢献した。

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、香川大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
(Ⅰ) 教育に関する目標	おおむね良好				
① アドミッションに関する目標	おおむね良好			1	
② 教育内容等に関する目標	おおむね良好		1	1	1
③ 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	2	
④ 教育環境の整備に関する目標	おおむね良好			1	
⑤ 学生への支援に関する目標	良好		2	1	
⑥ 教育における国際交流に関する目標	良好		1		
(Ⅱ) 研究に関する目標	おおむね良好				
① 地域の発展・活性化に資する研究に関する目標	良好		2		
② 卓越した研究拠点形成に関する目標	良好		2		
③ 研究の国際化に関する目標	おおむね良好			1	
④ 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好			2	
(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好				
① 地域を志向した教育・研究に関する目標	良好		1		
② 社会貢献・地域貢献に関する目標	良好		2		
③ 産学官連携に関する目標	おおむね良好			1	
④ 生涯学習に関する目標	おおむね良好			1	

＜主な特記すべき点＞

個性の伸長に向けた取組

- 教養教育においては、平成 22 年度に大学が育成する人材像である 21 世紀型市民に必要とされる課題探求能力や幅広いコミュニケーション能力、広範な人文・社会・自然に関する知識等 5 つの能力要素を共通教育スタンダードとして定め、平成 23 年度から共通教育スタンダードに対応した新しいプログラムを実施している。また、専門教育においては、平成 23 年度に 21 世紀型市民及び学士に必要な要素をディプロマ・ポリシーとして策定し、各学部が当該ポリシーに基づくプログラムを平成 24 年度から実施している。
(中期計画 1-2-1-2)
- 希少糖の生産研究を推進するとともに、農学・医学分野への展開においては、植物における病害抵抗性に関連する遺伝子発現の効果や血糖値上昇抑制作用、抗酸化作用及び抗がん作用等に関する研究成果があり、4 件の論文は論文データベース収録 27 分野で被引用数が上位 1 % の論文、43 件の論文は被引用数が上位 7 % の論文となったほか、平成 27 年度に日本栄養・食糧学会技術賞を受賞している。(中期計画 2-2-2-1)
- 平成 22 年に農学部にてファイトジン（植物遺伝子）フロンティアをキーワードに植物ゲノム・遺伝子源解析センターを設置し、地球温暖化等に係る種々の環境ストレス耐性の増強に向け、実用植物を用いた基礎・応用研究に取り組む研究基盤プラットフォームを構築することにより、植物免疫応答機構に関する研究、植物シグナル伝達に関する分子研究等において成果があがっている。(中期計画 2-2-2-2)
- 香川大学と徳島大学が合同で防災・危機管理特別プログラムを開講し、学校防災、行政・企業防災、救急救命・災害医療の 3 タイプの防災・危機管理の専門家を養成し、合計 61 名に対し災害・危機対応マネージャー資格を授与している。また、行政機関・民間企業・地域コミュニティが連携して、地域組織 110 の事業継続計画（BCP）作成を推進するとともに、防災マップの作成指導や学校防災アドバイザーの派遣等、地域の防災・減災に係る教育研究拠点としての取組を行っている。(中期計画 3-2-2-1)

改善を要する点

- 厳正な学位審査に関するガイドラインを策定し、学位論文審査基準の整備を図っているものの、一部の研究科において、公開審査会の実施や学外審査員が導入されていないなど、「適切な学位審査制度」の設置が十分にはなされていない。(中期計画 1-2-3-1)
- 各学部で独自に実施している海外研修制度等に加え、全学を対象とした在外研究制度実施要項を制定しているものの、第 2 期中期目標期間（平成 22 年度から平成 27 年度）

における在外研究制度の利用者は2名と教員数全体に比して少なく、「研究に専念できる体制」は十分には機能していない。（中期計画 2-4-2-2）

＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞

- 被災地の復興支援に一丸となって取り組むために、学長を本部長とした「香川大学東日本大震災復興支援対策本部」を設置し、医療スタッフの派遣や救援物資の供給、義援金の募集などを行った。医学部及び医学部附属病院からは、発災当日に DMAT（Disaster Medical Assistance Team（災害医療救助チーム））として医師2名、看護師2名ほか計6名を派遣し、さらに、亜急性期の継続的な避難所医療支援として救護班（医師1名、看護師2名で編制）を4班派遣した。また、福島原発の事故に関して放射線スクリーニング検査支援に放射線技師1名を派遣したほか、検案支援に法医学教授1名を派遣した。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

《本文》

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標（6項目）のうち、2項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) アドミッションに関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「アドミッションに関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○志願者の増加に向けた取組の実施

中期目標（小項目）「アドミッションポリシーに基づく向学心旺盛で優秀な入学者を確保する。」について、志願者増加に向け、高等学校別の志願者の動向分析を基に決定した県内重点高等学校を対象に、推薦入試合格者が多いなど各校の受験特性に応じた高等学校訪問・説明会を実施している。また、大阪大学中之島センター内に設置したサテライトオフィス大阪では、関西地区を対象とするガイダンス等の広報活動や、志願者が多い都市を対象とする入試対策セミナーを各地で実施するなどの取組を行っており、平成 23 年度から平成 25 年度の入試対策セミナー参加者のうち平均で約 7 割が志願している。（中期計画 1-1-1-2）

(特色ある点)

○志願者のニーズに応じた入試体制の整備

中期目標（小項目）「アドミッションポリシーに基づく向学心旺盛で優秀な入学者を確保する。」について、入試動向の調査・解析を基に、各学部において志願者の特性に応じた入試科目や募集区分等の変更を行うとともに、工学部及び農

学部では平成 24 年度入学者選抜試験から関西地区に学外検査場を設置するなど、志願者のニーズに対応した入試体制を整備している。また、平成 27 年度に四国地区 5 国立大学が連携して共同インターネット出願サイトを開設し、運用している。（中期計画 1-1-1-1、1-1-1-3）

（2）教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のうち、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」、1 項目が「不十分」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

（優れた点）

○学士課程教育プログラム構築の取組

中期目標（小項目）「学士力を備えた人材を育成する。」について、卒業生アンケート調査の分析結果から把握した、コミュニケーション能力、積極性、問題解決・課題探求能力等の育成に関する課題を踏まえ、平成 24 年度までにディプロマ・ポリシーを策定し、学士課程教育プログラムを実施している。また、平成 27 年度に全学生を対象としたアンケート調査を行い、学生の学習志向・進路志向に対応する能力の修得状況を確認するなど、学士課程教育プログラムの構築に取り組んでいる。（中期計画 1-2-1-1）

○21 世紀型市民育成のための学士課程教育の編成

中期目標（小項目）「学士力を備えた人材を育成する。」について、教養教育においては、平成 22 年度に大学が育成する人材像である 21 世紀型市民に必要とされる課題探求能力や幅広いコミュニケーション能力、広範な人文・社会・自然に関する知識等 5 つの能力要素を共通教育スタンダードとして定め、平成 23 年度から共通教育スタンダードに対応した新しいプログラムを実施している。また、専門教育においては、平成 23 年度に 21 世紀型市民及び学士に必要な要素をディプロマ・ポリシーとして策定し、各学部が当該ポリシーに基づくプログラムを平成 24 年度から実施している。（中期計画 1-2-1-2）

（特色ある点）

○学部横断型・自由参加型のプログラムの実施

中期目標（小項目）「地域を教育の素材に活用しながら幅広い教養と国際的通用性を有する人材を育成する。」について、平成 25 年度から、グローバル人材育成プ

プログラム（英語コース・中国語コース）、防災士養成プログラム、人間探究（文学作品熟読）プログラムの3プログラムから構成される、学部横断型・自由参加型の「ネクストプログラム」を実施している。各プログラムの参加者数は、平成27年度までに合計128名となっている。（中期計画1-2-2-1）

（改善を要する点）

○「適切な学位審査制度」の設置

中期目標（小項目）「高度な学術によって社会をリードする人材を育成するために、大学院教育の実質化を推進する。」のうち、中期計画「大学院学位授与基準を厳格化するために、公開審査会の実施や学外審査員の導入など適切な学位審査制度を設ける。」について、厳正な学位審査に関するガイドラインを策定し、学位論文審査基準の整備を図っているものの、一部の研究科において、公開審査会の実施や学外審査員が導入されていないなど、「適切な学位審査制度」の設置が十分にはなされていない。（中期計画1-2-3-1）

（3）教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

（優れた点）

○教育戦略室の設置による連携体制の整備

中期目標（小項目）「教育機能の強化に向け教育体制の再編を行う。」について、平成26年度に、教育改革の基本方針案の策定・提言及び教育の質の検証機能の強化を目的として教育戦略室を設置し、これを中心に、センター・教育系各種委員会が連携する体制が整備され、全学共通教育カリキュラムの見直し、大学院におけるディプロマ・ポリシーの基本項目の策定及び当該ポリシーと教育課程との整合性の点検等を実施している。また、戦略的業務を担当する高度専門職を教育企画担当リーダーとして配置し、事務体制の整備及び強化に取り組んでいる。

（中期計画1-3-1-2）

(特色ある点)

○他大学との教育連携の推進

中期目標(小項目)「他大学との教育連携により、教育の質を向上させる。」について、平成23年度に愛媛大学及び高知大学と共同で、農学教育の質の向上及び相互補完強化を目的とする農学コンソーシアム四国を設立している。さらに、平成24年度にインドネシア3大学を加え、熱帯地域農業の持続的発展、地球規模の環境保全に貢献する教育・研究ネットワーク形成を目的とする6大学教育コンソーシアム(SUIJI)を設立し、日本とインドネシアの学士・修士課程学生が地域コミュニティで協働するSUIJIプログラムを実施し、平成27年度までに国内外110名の学生が参加している。(中期計画1-3-2-1)

(4) 教育環境の整備に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由)「教育環境の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(5) 学生への支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由)「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○就職支援体制の充実強化の取組

中期目標(小項目)「学生への就職支援体制を充実強化する。」について、就職相談の多い時期に相談員を増員するとともに、平成26年度に学生アンケートの結果に基づく改善を行った新キャリア支援システムの稼働、相談室の増設等、就職支援体制の充実に取り組んでいる。これらの取組により、就職相談利用件数は、平成22年度の約500件から平成27年度の約1,800件へ増加しており、卒業生に占める就職者の割合は、平成22年度の67.0%から平成27年度の77.0%へ増加している。(中期計画1-5-2-1)

(特色ある点)

○学生の自主活動支援強化の取組

中期目標（小項目）「学生の自主活動支援を強化する。」について、学生の魅力的・創造的なプロジェクトを募集し、経費を支援する「香大生の夢チャレンジプロジェクト事業」を実施しており、小豆島の棚田の支援を行う「棚田発！日本のこころのプロジェクト」等の活動に対し、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に総額約1,950万円を支援している。この取組は商店街の活性化等の地域の課題解決をテーマに取り組むものが多く、地域社会の活性化等に貢献している。（中期計画1-5-3-1）

(6) 教育における国際交流に関する目標**【評価結果】中期目標の達成状況が良好である**

（判断理由）「教育における国際交流に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>**(特色ある点)**

○留学生の就職支援強化の取組

中期目標（小項目）「本学の国際交流戦略に基づいて教育における国際交流を推進する。」について、日本のビジネス文化や質の高い食品衛生の考え方と取組を理解した留学生を日系企業に就職させることを目的とした農学研究科「日本の食の安全」特別コースでは、日本企業のビジネス文化やマナー等について学ぶ「ビジネス教育Ⅰ」、企画・立案書作成に必要な日本語能力を身に身に付ける「ビジネス教育Ⅱ」等の科目を開講している。また、実践教育として、衛生管理の現場とともに企業の人的教育方針について学び、自己のキャリアプランについて考えるインターンシップを協力企業において実施している。（中期計画1-6-1-3）

(II) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(4項目)のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 地域の発展・活性化に資する研究に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「地域の発展・活性化に資する研究に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○地域の医療機関等との連携事業の推進

中期目標(小項目)「瀬戸内圏の諸問題に関する調査・研究を行い、地域の課題を解決する知の拠点を目指す。」について、シームレスな地域連携医療の実現のため、かがわ遠隔医療ネットワーク(K-MIX)を基礎として、調剤薬局と連携する電子処方箋の開発や、ウェブテレビ会議システム「ドクターコム」の開発及び同システムを活用するオリーブナースの育成事業に、県や医師会と連携して取り組んでいる。また、かがわ遠隔医療ネットワークを強化したシステム(K-MIX+)により、県内15の中核病院と地域診療所を結ぶ、瀬戸内圏住民の生涯健康カルテネットワークを構築しており、ネットワークへの参加医療機関は136に増加し、登録患者数は2,500症例を超えている。(中期計画2-1-1-2)

○農学部・農学研究科における希少糖研究の推進

農学部・農学研究科において、新酵素による希少糖生産技術の研究を行っており、平成25年度から産学官による香川県産業成長戦略「かがわ希少糖ホワイトバレー」プロジェクトにより、希少糖の食品分野への利用拡大を進めている。(現況分析結果)

(特色ある点)

○文理融合型の新たな研究プロジェクトの推進

中期目標（小項目）「人文社会科学分野を中核に文理融合型の新たな研究プロジェクトを構築・推進する。」について、平成 25 年度に 5 学部 1 センター 18 名の文理融合のメンバーで構成される水プロジェクトチームを立ち上げている。地域と連携した取組により、緊急時の予備水源となりうる浅層地下水の存在に関する研究、太陽光発電による海水淡水化システム開発等、地域の課題解決に向けた成果が出ている。平成 26 年度及び平成 27 年度に実施した「香川の水を考える」等のシンポジウムや国際ワークショップを開催し、研究成果を発信している。

(中期計画 2-1-2-1)

(2) 卓越した研究拠点形成に関する目標**【評価結果】中期目標の達成状況が良好である**

(判断理由) 「卓越した研究拠点形成に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2 項目）のすべてが「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

○異分野連携による産学官連携の研究推進

中期目標（小項目）「学術研究を深め、そこから生まれる人的資源・物的資源を活かしたものづくりの拠点を形成する。」について、平成 24 年度に採択された、文部科学省のナノテクノロジープラットフォーム事業により、プロセス関連装置の産学官の共用化を推進し、利用者への技術支援、講習会・セミナー等による人材育成に取り組むとともに、地元企業等を含む複数の企業との医工連携による超小型広視野赤外分光断層イメージング装置や高性能触覚センサの開発、農工分野での次世代アグリスマートセンサの開発等、異分野融合による産学官連携研究に取り組んでいる。(中期計画 2-2-1-1)

○バイオ関連研究の推進

中期目標（小項目）「バイオ関連研究を発展させ、その成果を基盤として実用化を目指す。」について、希少糖の生産研究を推進するとともに、農学・医学分野への展開においては、植物における病害抵抗性に関連する遺伝子発現の効果や血糖値上昇抑制作用、抗酸化作用及び抗がん作用等に関する研究成果があり、4 件の論文は論文データベース収録 27 分野で被引用数が上位 1 % の論文、43 件の論文は被引

用数が上位7%の論文となったほか、平成27年度に日本栄養・食糧学会技術賞を受賞している。(中期計画2-2-2-1)

○植物ゲノム・遺伝子源解析センターの設置

中期目標(小項目)「バイオ関連研究を発展させ、その成果を基盤として実用化を目指す。」について、平成22年に農学部にはファイトジーン(植物遺伝子)フロンティアをキーワードに植物ゲノム・遺伝子源解析センターを設置し、地球温暖化等に係る種々の環境ストレス耐性の増強に向け、実用植物を用いた基礎・応用研究に取り組む研究基盤プラットフォームを構築することにより、植物免疫応答機構に関する研究、植物シグナル伝達に関する分子研究等において成果があがっている。(中期計画2-2-2-2)

(3) 研究の国際化に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究の国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○海外教育研究拠点大学と連携した共同研究の推進

中期目標(小項目)「研究の国際化のため、全学的な視点での実施体制の編制や国際共同研究を推進する。」について、平成23年度から、海外教育研究拠点大学であるチェンマイ大学(タイ)及びブルネイ・ダルサラーム大学(ブルネイ)と、疫学調査・特定検診、食育プログラム及び希少糖等を利用した健康商品の開発を柱とした香川方式により生活習慣病を改善する共同研究を展開している。また、平成26年度及び平成27年度に科学技術振興機構(JST)の日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)に基づき、若手研究者や医師を招へいし、疫学や食育とともに希少糖の健康食品への応用について研究を進めている。(中期計画2-3-1-2)

(4) 研究実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

○先導的・中核的研究の重点的支援

中期目標(小項目)「研究の活性化を図るため、教員の研究活動環境の整備を図る。」について、平成24年度から研究推進事業制度を設け、先導的・中核的な研究であるリーディングリサーチ4件に対して、総額1億4,300万円の重点的な支援を行うなどの取組により、JSTの戦略的創造研究推進事業(CREST)採択につながっている。科学研究費助成事業について第1期中期目標期間(平成16年度から平成21年度)と第2期中期目標期間を比較すると、採択件数は1.6倍、採択金額は1.4倍となっており、論文データベース334分野で被引用数が上位10%の論文数は、第1期中期目標期間の年平均27.7件から第2期中期目標期間の年平均51.4件へ増加している。(中期計画2-4-2-1)

(改善を要する点)

○「研究に専念できる体制」の機能

中期目標(小項目)「研究の活性化を図るため、教員の研究活動環境の整備を図る。」のうち、中期計画「管理運営体制を見直し、教員の管理運営・教育に係る職務を一定期間・一部免除する制度の導入など、研究に専念できる体制を整備する。」について、各学部で独自に実施している海外研修制度等に加え、全学を対象とした在外研究制度実施要項を制定しているものの、第2期中期目標期間における在外研究制度の利用者は2名と教員数全体に比して少なく、「研究に専念できる体制」は十分には機能していない。(中期計画2-4-2-2)

(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」に関する中期目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 地域を志向した教育・研究に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「地域を志向した教育・研究に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(2) 社会貢献・地域貢献に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会貢献・地域貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○地域の防災・減災に係る教育研究拠点としての取組の実施

中期目標（小項目）「地域の危機管理、安全・安心な社会づくりに貢献する事業を行う。」について、香川大学と徳島大学が合同で防災・危機管理特別プログラムを開講し、学校防災、行政・企業防災、救急救命・災害医療の3タイプの防災・危機管理の専門家を養成し、合計61名に対し災害・危機対応マネージャー資格を授与している。また、行政機関・民間企業・地域コミュニティが連携して、地域組織110の事業継続計画（BCP）作成を推進するとともに、防災マップの作成指導や学校防災アドバイザーの派遣等、地域の防災・減災に係る教育研究拠点としての取組を行っている。（中期計画3-2-2-1）

(特色ある点)

○地域連携による糖尿病関連疾患の克服への取組

中期目標（小項目）「地域との連携を強化し、地域社会ニーズに即した社会貢献・地域貢献事業を推進する。」について、地域課題である糖尿病関連疾患の克服のため、K-MIX を基盤に県や医師会と連携した取組を行っている。平成 22 年度に医学部附属病院に糖尿病センターを設置するとともに、糖尿病治療の地域連携を目的に糖尿病クリティカルパス初期版を開発し、K-MIX の活用により地域医療機関の間で患者の所見や症状経過、検査結果、使用薬剤等の情報共有を可能としている。（中期計画 3-2-1-1）

(3) 産学官連携に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「産学官連携に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(4) 生涯学習に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「生涯学習に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

判定結果一覧表

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① アドミッションに関する目標		おおむね良好	
アドミッションポリシーに基づく向学心旺盛で優秀な入学者を確保する。		おおむね良好	
1-1-1-1	入試動向の調査・解析に基づき志願者の特性に応じた選抜方法を改善・実施し、その検証を行う。	おおむね良好	特色ある点
1-1-1-2	志願者、受験者の動向分析に基づき、高校等の訪問場所や地域を特定するなどの戦略的・効果的入試広報を実施し、検証を行う。	良好	優れた点
1-1-1-3	四国地区5国立大学連携による「連合アドミッションセンター」を設置し、学力を含めた総合的評価によるAO入試について検討を進める。	おおむね良好	特色ある点
② 教育内容等に関する目標		おおむね良好	
学士力を備えた人材を育成する。		良好	
1-2-1-1	学生の学習志向・進路志向に応じた学士課程教育プログラムを実施・検証する。	良好	優れた点
1-2-1-2	学士課程教育を通じて21世紀型市民育成のための教養教育及び専門教育を実施する。	良好	優れた点
1-2-1-3	コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルを高める科目及びボランティア関係科目等を開講・検証する。	おおむね良好	
地域を教育の素材に活用しながら幅広い教養と国際的通用性を有する人材を育成する。		おおむね良好	
1-2-2-1	学部の枠を超えた全学的な教育プログラムにより、言語・文化・社会・心理等の教育を実施する。	良好	特色ある点
1-2-2-2	地域社会と連携したフィールドワーク型の科目数を増加させる。	おおむね良好	
高度な学術によって社会をリードする人材を育成するために、大学院教育の実質化を推進する。		不十分	
1-2-3-1	大学院学位授与基準を厳格化するために、公開審査会の実施や学外審査員の導入など適切な学位審査制度を設ける。	不十分	改善を要する点
1-2-3-2	大学院のシラバスの充実と学生による授業評価制度の導入・拡充を行う。	おおむね良好	
③ 教育の実施体制等に関する目標		おおむね良好	
教育機能の強化に向け教育体制の再編を行う。		おおむね良好	
1-3-1-1	柔軟で機動的な教育研究を実施するため、平成23年度に教育組織と教員組織を分離する。	おおむね良好	
1-3-1-2	教育分野における企画・戦略機能及び教育の質の検証機能を強化するための体制を整備する。	良好	優れた点

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
1-3-1-3	外国語によるコミュニケーション能力を向上させる教育体制を整備し、検証を行う。	おおむね良好	
他大学との教育連携により、教育の質を向上させる。		良好	
1-3-2-1	複数大学の優れた教育を結集するため、分野別の教育コンソーシアムを立ち上げる。	良好	特色ある点
1-3-2-2	四国地区5国立大学連携による「大学連携e-Learning教育支援センター四国」を設置し、大学教育の共同実施を推進する。	良好	
大学院課程の再編・強化を図る。		おおむね良好	
1-3-3-1	大学院修士・博士課程の在り方について全学的に検討し、大学院を再編する。	おおむね良好	
④ 教育環境の整備に関する目標		おおむね良好	
教育の質の向上のため、ネットワーク環境の整備・充実を図る。		おおむね良好	
1-4-1-1	分散キャンパス間、他大学間での円滑な単位取得に繋がる履修のため、eラーニングシステムや遠隔授業システムを整備する。	おおむね良好	
⑤ 学生への支援に関する目標		良好	
学生中心の大学づくりに向けた総合的な学生支援体制を整備する。		おおむね良好	
1-5-1-1	情報通信技術を利用した総合的な学生支援システムを活用し、専門スタッフを配置した教職員協働による学生支援・相談体制を整備する。	おおむね良好	
1-5-1-2	幸町キャンパスにおける学生支援体制を一元化する。	おおむね良好	
学生への就職支援体制を充実強化する。		良好	
1-5-2-1	「キャリア支援システム」の利用率を高め、効果的な就職相談体制を実現させる。	良好	優れた点
学生の自主活動支援を強化する。		良好	
1-5-3-1	学生による学生の修学・就職活動支援や課外活動、ボランティア活動等の学生の自主的活動支援のため、大学によるピア・サポート認証、支援の拡大を行う。	良好	特色ある点
⑥ 教育における国際交流に関する目標		良好	
本学の国際交流戦略に基づいて教育における国際交流を推進する。		良好	
1-6-1-1	本学の基金等を活用した援助金制度などを基に学生の海外留学や国際会議での発表等の参加者数を拡大する。	良好	
1-6-1-2	海外協定大学とインターネットを用いた遠隔教育システムを整備し、ダブルディグリー制度に基づく教育プログラムを実施する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
1-6-1-3	語学研修生等を含む留学生受入数を200人以上に拡大するとともに、留学生等に対し、就職支援等を強化する。	良好	特色ある点
(Ⅱ) 研究に関する目標		おおむね良好	
① 地域の発展・活性化に資する研究に関する目標		良好	
瀬戸内圏の諸問題に関する調査・研究を行い、地域の課題を解決する知の拠点を目指す。		良好	
2-1-1-1	瀬戸内圏の環境に関する研究を行い、環境改善・保全対策を立案する。	良好	
2-1-1-2	かがわ遠隔医療ネットワークを基礎として、瀬戸内圏住民の生涯健康カルテネットワークを構築し、情報通信技術による医療の構造改革に向けた研究を行う。	良好	優れた点
2-1-1-3	瀬戸内圏特有の歴史・文化・社会システムに関する観光資源化・景観の活用法の研究を行う。	おおむね良好	
人文社会科学分野を中核に文理融合型の新たな研究プロジェクトを構築・推進する。		良好	
2-1-2-1	地域の持続的発展に寄与するため、水文化・環境等に関する調査に基づく比較研究を行う。	良好	特色ある点
② 卓越した研究拠点形成に関する目標		良好	
学術研究を深め、そこから生まれる人的資源・物的資源を活かしたものづくりの拠点を形成する。		良好	
2-2-1-1	情報通信技術、人間支援技術、知能センシング技術、超微細ナノ加工技術、バイオ反応検出技術の研究を行う。	良好	優れた点
2-2-1-2	環境に配慮した低炭素社会の実現を目指して、高機能新材料の研究を行う。	良好	
バイオ関連研究を発展させ、その成果を基盤として実用化を目指す。		良好	
2-2-2-1	病態における遺伝子・細胞内情報伝達分子の役割の解明や糖質バイオ技術等の研究を医学・農学・薬学分野に展開させ、新しい疾患予防法・診断法・治療法の研究を行う。	良好	優れた点
2-2-2-2	資源植物遺伝子機能を解析するセンターを設置し、有用植物等の遺伝子組み換えを行い、有用植物の研究を行う。	良好	優れた点
③ 研究の国際化に関する目標		おおむね良好	
研究の国際化のため、全学的な視点での実施体制の編制や国際共同研究を推進する。		おおむね良好	
2-3-1-1	国際共同研究・シンポジウム開催・ネットワーク構築等をインターナショナルオフィスが全学的視野で主導・企画・立案する体制を整備する。	おおむね良好	
2-3-1-2	東アジア・東南アジアを中心とした地域間交流を通じて、省農薬プロジェクトや医療支援プロジェクトなどの国際共同研究を行う。	良好	特色ある点

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
④ 研究実施体制等に関する目標		おおむね良好	
研究の高度化に向け、研究支援体制を整備し、研究基盤を充実させる。		おおむね良好	
2-4-1-1	教員の高度な研究業績を補助・支援できるように、学内の研究支援体制の見直しや専門的技術職員の再配置を行う。	おおむね良好	
研究の活性化を図るため、教員の研究活動環境の整備を図る。		おおむね良好	
2-4-2-1	新領域研究、組織横断的研究の推進のため、研究チームに対する研究資金獲得・研究進捗管理・研究成果公表などの支援を行う体制を整備する。	良好	優れた点
2-4-2-2	管理運営体制を見直し、教員の管理運営・教育に係る職務を一定期間・一部免除する制度の導入など、研究に専念できる体制を整備する。	不十分	改善を要する点
(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献に関する目標		おおむね良好	
① 地域を志向した教育・研究に関する目標		良好	
地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。		良好	
3-1-1-1	「地域のための大学」として、全学的な教育カリキュラム等の改革を行い学生の地域に関する知識・理解を深めるとともに、地域の課題（ニーズ）と大学の資源（シーズ）の効果的なマッチングによる地域の課題解決、更には地域社会と大学が協働して課題を共有しそれを踏まえた地域振興策の立案・実施まで視野に入れた取組を進める。	良好	
② 社会貢献・地域貢献に関する目標		良好	
地域との連携を強化し、地域社会ニーズに即した社会貢献・地域貢献事業を推進する。		良好	
3-2-1-1	地域住民の健康向上を目指し、医療ネットワークを駆使して糖尿病関連疾患を克服する活動を展開する。	良好	特色ある点
3-2-1-2	瀬戸内圏の食品産業界と連携して、食品の安全性を評価分析できる体制を整備するとともに、安全かつ優れた嗜好性・機能性を有する食品の開発を行う。	良好	
地域の危機管理、安全・安心な社会づくりに貢献する事業を行う。		良好	
3-2-2-1	地域セキュリティ科学の理論研究とその体系化を行うとともに、地域防災・減災教育研究の拠点を形成する。	良好	優れた点
③ 産学官連携に関する目標		おおむね良好	
研究活動の個性化を図るため、地域産業の技術課題解決や技術開発に取り組む。		おおむね良好	
3-3-1-1	ニーズの観点から体系化した本学のシーズを、地域の自治体、公設試験研究機関、地域企業群等と協働して育成し、その成果を地域企業で利活用する。	おおむね良好	

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	3-3-1-2	研究シーズの技術ポートフォリオや特許マップの策定など研究支援機能を強化することにより、受託研究や共同研究を活性化し、その研究成果により社会貢献を行う。	おおむね良好	
	3-3-1-3	四国地区5国立大学連携による産学官イノベーション創出拠点を構築し、産学官連携活動を充実する。	おおむね良好	
④ 生涯学習に関する目標			おおむね良好	
地域社会における地域基盤社会の構築に寄与するため、学内資源を有機的に統合させ、地域の生涯学習を振興する。			おおむね良好	
	3-4-1-1	「公開授業」と「eラーニング」を活用して、市民や卒業生のリフレッシュ教育やリカレント教育を想定した教育プログラムを整備する。	おおむね良好	